

## 名城邦夫教授のご退職にあたって

経済学部長 野村 益夫

名城邦夫先生は、2018年3月末をもって定年退職されました。先生は、43年もの長きにわたって、本学ならびに経済学部の発展のため尽力され貢献なされてきました。ここに、本学と経済学部を代表して心より先生への感謝の意を表します。

名城先生は、1971年3月高崎経済大学経済学部経済学科を卒業後に、神戸商科大学（現兵庫県立大学）大学院経済学研究科で修士課程および博士課程を修了されています。1998年3月に神戸商科大学より、「中世ドイツ・バンベルク司教領の研究—貨幣経済化と地代—」の研究で博士（経済学）の学位を取得されています。

1975年4月に本学部経済学部経済学科助手として着任され、1978年に講師、1981年に助教授に昇進され、1988年に経済学部経済学科教授に昇任されました。教職課程や専門科目における中心メンバーとして、経済学部および全学部における教育研究に貢献されました。教授就任後には、産業科学研究所（現 総合研究所）所長を務め、学部長を1996年4月～2000年3月の4年間にわたって務められて、経済学部の学部運営や経済学部政策学科の設置について貢献されました。本学常任理事を、1997年4月～2000年8月および2005年4月～2008年5月の期間にわたって歴任され、本学の経営面でも多大な貢献をされました。教授会議事に関する発言はソフトな話し方での確なものでした。また、先生は、専門演習等のゼミのみならず、経済史入門や教職関係の西洋経済史および外国史等を担当されました。愛情を持ってゼミ学生を指導され、研究室ではゼミ学生ともよく懇談されていました。

先生は、ドイツ語を駆使して、大学院以来45年間にわたってヨーロッパ経済史を研究されてきました。先生の主要業績目録を拝見しますと、研究に関する熱意を感じます。前半の20年は中世封建社会の領主制の研究を行われ、後半の25年間は市場史、貨幣史を研究対象とされました。前半には南ドイツのバンベルク司教領の設立から16世紀までの発展を研究対象とされ、土地台帳の分析から中世前期における領域国家が成立する過程を実証的に明らかにされました。後半には、中世後期イタリア都市商人によりヨーロッパ大の取引ネットワークが展開され、イタリア都市商人の信用決済システムが確立されたことを実証的に明らかにされました。その後、ヨーロッパにおける資本主義市場経済システムの成立を中世ヨーロッパにおける制度的領域国家の成立から始め、中世後期のイタリア都市国家の商人の市場ネットワークと信用決済システムをもって市場経済システムの開始ととらえられました。

名城先生は、2018年4月に本学名誉教授になられました。ここ数年、科研費のメンバーおよびLeipzig大学のDenzel教授とともにご研究をされています。先生はDenzel教授の自宅で何度か会

食されています。先生が、国内外で今後とも、ますますご健勝でご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。